



2010年度医療団標語聖句（箴言第3章6節より）

常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば 主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。

念願の新病棟が与えられて —新しいぶどう酒は新しい皮袋へ—

新年おめでとうございます。

日本バプテスト連盟医療団は、昨年10月末に、第二期工事として計画していた新病棟を完成させ、その喜びの中で新しい年を迎えました。2011年が、希望の年となりますように、皆様の上に神様の限りない祝福と御導きがありますようにお祈りいたします。

さて、病院の第二期工事計画は、色々な困難に直面して、着工が危ぶまれた時期もありましたが、皆様のご尽力と関係者の方々のご理解とご協力により、順調に工事が進められ14ヶ月に亘る工事の末、念願の新病棟が落成いたしました。この間事故もなく見事な病棟が完成しその姿を見ることができましたのは誠に感謝であり、今後の医療団の発展の予兆を見る思いがして嬉しく思います。

私は、北院長が言われた「病院は地場産業である。」という言葉の思い起こしております。これは、地域に根差した医療、地域に奉仕する医療の伸展を目指すという喩えの言葉であると私なりに理解していますが、新病棟の完成はまさに地域社会に貢献できる仕組みが整ったことを意味します。

これからは、ますます地域に根差した医療の働きが展開できると確信しています。

一般的に言えることですが、ハード面がいかに充実しても、ソフト

面で不備があれば、その意図するところは達成できません。

『新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである。』と言う有名な言葉があります。これはイエスさまが、古い教え（律法）とイエスの新しい教え（福音）について語られた譬え話ですが、古い皮袋（羊の胴体で作った水やぶどう酒を入れる皮袋）に新酒を入れると、弾力性を失った古い皮袋は、新酒の発酵による膨張に耐えられず破れてしまうのです。

このたび新しい施設が整いました。新しい皮袋となった新病棟の中で、新しい活力に満ちた医療と、キリストの愛に根差した看護や慰めに満ちた温かい交わりが展開され、福音が力強く語られていくことを期待しています。特に美しいチャペルは伝道の良き動きの場となることでしょう。

そして、山岡理事長が表明されているように、「責任と自信をもって医療を提供できる施設」の働きが展開できるように、これを機に医療団の基本理念である「全人医療」の業が今後一層力強く進められることを念願して已みません。

日本バプテスト連盟医療団 副理事長

たけむら のりひこ
竹村 紀彦



新チャペルができるまで

Interview

ガラスアート作家三浦啓子さんのステンドグラスを配した新しい病院チャペル。16年ぶりに病院にチャペルが戻ってきた！今回は、医療団牧師・チャプレンの浜本京子さんにインタビューしました。

新しいチャペルコンセプトは？

2009年秋より医療団施設職員と検討部会を立ち上げて考えていきました。テーマは「あたたかで静かな空間」、人々を包み込む「親しみやすさ」です。北白川の美しい自然の恵みを頂くバプテスト病院らしく、「緑・水・光を感じる空間」をイメージしました。

ステンドグラスとチャペルからうまれたもの

このコンセプトは聖書詩編 23 編 2 節をもとにしています。「主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。」生きていくということは当たり前のようにいて実に複雑でたいへんなことです。傷ついたり、こころ渴いた者、どんな人でもこのチャペルに立ち寄ってほしい、この世の喧騒からの逃れてこころ静かに自分を取り戻してほしい、そして命を与える神様の愛にふれてほしい～そんな祈りがこめられています。作家の三浦さんより頂いたステンドグラスのコンセプトが「生ける水」でしたので、ちょうど良いと思いました。いのちがこんこんとわきでてくるイメージです。

病院の中にチャペルがあるということとは？

たとえば病院というところは患者さん、家族にとって泣くところがありません。病や怪我をする時、わたしたちは大なり小なりの生命の危機を体験し、いつも以上に不安になったり恐れを感じたりするものです。自らのこころの痛みに気がつくこともあるでしょう。一方で日常では感じなかった感謝の気持ち、

喜びに出会うのもまた事実です。このチャペルがそんな自分自身と安心して向き合う空間であることを願います。それが祈りの場となるのです。

ステンドグラスで見てほしいところ

ガラスアート作家三浦さんの作品は全国の公共施設・教会のいたるところで見ることができます。ぜひ「三浦ブルー」といわれる「青」に触れてください。十字架はクリスタルで抜き、借景の緑がそよぐ光の十字架です。

今後の展望は？

このホールは、院内の方々だけでなく地域の皆様にも開放されています。人々の「祈りの場」として日々の礼拝をささげると共に、研究発表などでもできる装置を完備しました。いろいろな研究会の場として活用ください。このチャペルから人間のいのちをはぐくむ新鮮な討議や活動が進められていくことを期待しています。

さいごに

新チャペルは医療団ステンドグラス募金を捧げてくださった方々の支えと祈りなしには完成できませんでした。このチャペルの完成を多くの方が夢描いてくださいました。今多くの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

牧師・チャプレン
はまもと きょうこ
浜本 京子



感謝 病院内チャペル完成

東山が錦秋に染まり始めた 10月30日、病院新病棟竣工式に先立ちチャペルの献堂式・感謝礼拝が執り行われましたことは誠に感激の極みです。4年前に完成した第一期工事では資金的な問題でいろいろところで職員の夢がかなった訳ではなかったことから、第二期工事では、職員の意見を前向きに取り上げて建設を行ってきました。職員食堂はその成果です。勿論、贅沢が出来るわけではありませんが、ある程度みんなが納得できる形で竣工にたどり着いたとの実感をもっています。

チャペル計画は医療団の理念としては当然ですが、すでにあるイマヌエルホールに加えての病院内チャペル新設には、牧師室からの強い希望を勘案しても、様々な要望のある中、優先順位を上位に持っていただくだけの職員の強い思いが必須でした。そうした中、2010年に仕事をしていた者

の思いが詰まった部屋、そのシンボルとなるステンドグラスを設置するための資金は「職員を主体とした募金でまかなう」という案がうまれました。この案がチャペル新設を牽引できたと思っています。医療団以外の方々からの浄財もあって完成できました。ご協力いただいた多くの皆様、本当にありがとうございました。

チャペルの形態をしていますが、多目的ホールとして各方面からの使用希望に対応できるように柔軟性をもって運用してまいります。医療団を訪れていただく方、職員、ご近所の皆様、どなたでも、そっと一人でものを考える場所としてもご利用ください。

理事長
やまおか よしお
山岡 義生



ステンドグラス制作過程

皆様とともに完成後の光空間のテーマを決定し、その後、ガラスの色質感を作り出し、出来上がったときの光のシャープさを表現するための技術力等も大切な要素となりました。世界の人々とのコラボレートも大切な一つでした。



1. 作品の原寸大の図面を起こす。
2. 原画に基づき墨で描く。(墨部分はエポキシ樹脂です) このとき特に光を透過した時の空間を想定して、緊張感を表現しなければならない。
3. 神の声が心の中に浸透する大切な光部分です。透明なガラスをより力強く透過するために祈りを持って御心のままにハンマーでカットをする。
4. 聖霊を表現するブルーの部分のガラスを置く。
5. 全体の微調整
6. 全体のカットが終わりキャッツウオークから全体を眺める。これで、ガラスカットが終了です。

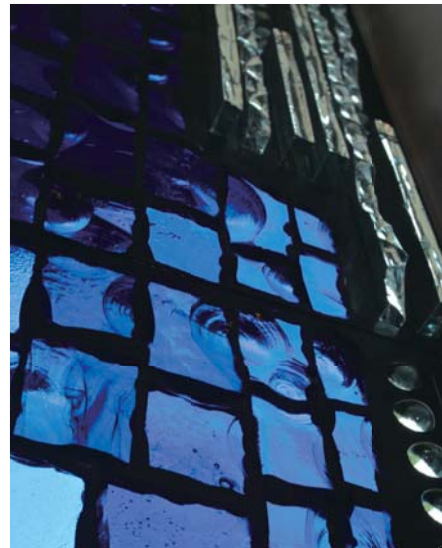
その後ガラスの全てのエッジを磨き、完成後、手で触れてもやさしいような処理をする。そして表と裏にエポキシ樹脂を施し、全体のポリッシングをして完成です。

三浦啓子氏 経歴

1972年 「ロクレール」を確立。ダルグラスとエポキシ樹脂による独自の光表現を開発
1978年 第8回世界クラフト会議で発表
1992年 関西芸術大賞 受賞
2008年 兵庫県文化功労賞 受賞
2008年 神戸市文化賞 受賞
現在までに世界および日本各地で作品を発表

主な作品

〈公共〉 東京国立博物館、平成館、兵庫県県庁 〈病院〉 名古屋第一赤十字病院、長岡赤十字病院、千葉県小児医療センター 〈企業〉 六本木ヒルズ森タワー、大同生命霞ヶ関ビル 〈ホテル〉 帝国ホテル、京都ホテルオークラ 〈学校〉 同志社女子大学、同志社小学校、白百合女子大学、フェリス女子学院短期大学
〈教会〉 東京ユニオンチャーチ、岡山カトリック教会、聖イエス嵯峨野教会、銀座教会、日本キリスト教会大阪北教会、日本聖書神学校 〈その他〉 サントリーホール、神戸元町アーケード 〈海外〉 エバーグリーン大学図書館(米ワシントン州)、フラウナウ美術館(ドイツ) ほかに多数



ホスピス・緩和ケア 相談窓口の仕事

昨年11月に在宅ホスピス緩和ケアクリニックが開設され、15年を迎えたホスピス病棟と窓口を1つにして2名の緩和ケア看護師が相談・予約の担当をしています。現在80～100件/月の電話相談があり、約20件/月の病棟見学・面談を行っています。電話相談は「どうしたらホスピスに入れるのか」等のホスピス入院に関する内容が多いのですが、最近は自宅療養と緩和ケアに関するご相談も増加しています。私は10年、ホスピス病棟の仕事に携わっていますが、がん治療の進歩と在宅緩和ケアの普及と共にホスピス病棟の役割も変化してきているように感じています。

がん治療の合間に集中して緩和治療を行う、在宅療養でのレスパイトケア(家族負担軽減のための入院)、外来での緩和治療など要望があり今後取り組むべきことだと思っています。勿論“残された時間を穏やかに過ごせる場所”としてのホスピスも大切にして、どこでもホスピス緩和ケアが提供できる形を目指していきたいと考えています。

日本バプテスト病院 緩和ケア認定看護師

まつざわ ゆかり
松澤 由加里

はーもにー
Harmony

イベント予告 2011年2月のチャペルコンサート

日時 2月12日(土) 15:15～15:40

出演 歌い隊 (スタッフ有志) による合唱

会場 イマヌエルホール (看護学校 1 階)



イベント報告

キリスト教週間 “Mission Week” 秋のチャペルコンサート



57名参加

10月30日(土)リンデンベルズのみなさんによるクワイアチャイムの演奏。まるでオルゴールのふたを開けたような甘く優しい音色に聴き入り、12名の皆さんの流れるような動きに目を瞠った40分でした。

2010年9月の チャペルコンサート



13名参加

9月15日(水)、末松義密氏による「そでふれあうも～心と音のふれあいの時～」と題してうたと数種類の弦楽器の演奏。外は大雨でしたがホールの中はほんわかした気持ちに満たされました。



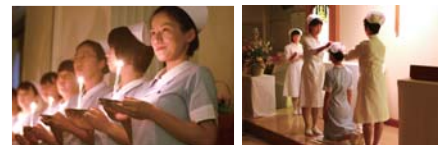
バプテストで働きませんか

京都の北東、北白川の地に静かにたたずむ緑多い環境の中で、
全人医療の技に励む私たちとともに働きませんか

採用情報 <http://www.jbh.or.jp/saiyou1.html>

戴帽式を執り行いました

2010年10月15日、イマヌエルホールにて、
日本バプテスト看護専門学校1年生21人が看護師になる決意を新たにしました。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。

11月に新しくチャペルと病棟が完成して2ヶ月が経ちました。そろそろ馴染み始めた頃でしょうか？山の病院の面影も無くなってしまいましたが、これからのバプテスト病院は、この病院で生まれた子供達、患者さん、スタッフの中にある記憶の上に作られていく事でしょう。

私自身は・・・年齢と共に新しい出来事に対応しづらくなってるような気がします(笑)

S.S

献金・献品感謝ご報告

(10.9.1～10.10.31) 敬称略

山西光恵	山西貴子	寂光院	瀧澤智明
村上清	虻川真人	虻川操	
虻川朝日	虻川大地	虻川恵果	
田中洋子	田中愛子	平井悦子	
佐藤佳子	高瀬佳子	田原三男	
白方誠彌	宗教法人	日本バプテスト連盟	

日本バプテスト病院の基本理念は全人医療です。

人間は「からだど、こころと、たましい」からなる全人格的な存在です。

当病院は、イエス・キリストの隣人愛に基づき、全職員がよいチームワークを保ち、専門的知識と技術を活かして、全人医療の業に専念します。

シャローム No.103 2011年1月発行 発行/日本バプテスト連盟医療団 発行人/理事長 山岡義生 編集/日本バプテスト病院広報委員会

この広報誌は日本バプテスト連盟医療団のはたらきを広くお知らせするために作成しております。

著作権、個人情報保護の観点から、流用・転載を固くお断りいたします。

日本バプテスト病院 <http://www.jbh.or.jp/>

バプテスト老人保健施設 <http://www.jbh.or.jp/roken/>

バプテスト眼科クリニック <http://www.eye-clinic.gr.jp/>

バプテスト訪問看護ステーション <http://www.jbh.or.jp/sisetsu/houmonkango.html>

バプテスト在宅ホスピス緩和ケアクリニック <http://www.jbh.or.jp/bhh/>

日本バプテスト看護専門学校 <http://www.jbsn-kyoto.com/>